

運動療法
臨床報告 12月度
【歩行安定】

結果例: 著効◎、有効○、やや有効△、
無効▲、悪化×

患者	日付	運動内容	効果	施術詳細
KYさん 女性79	1	立位バラン ス・感覚入 力	△	パーキンソン病のため、非常に歩行不安定で転倒多数。立位でのバランス運動と下肢感覚入力を行う。施術後、歩行し易さを自覚される。
	8	"	○	前回に基づき運動療法に時間をかけて行い、動作の再現を行う。やはり施術後は歩行の安定、下肢の運びやすさが見られました。
	15	"	△	施術後の足の運びなどが良くなり、安定はしますが、まだまだ定着まではせず、数日前も転倒されたそうです。
	22	"	○	今週も転倒されたそうで、定着はまだ先かもしれません。施術直後は動作性が数段良くなりますので、続けていきます。
	29	"	○	施術後の動作性に安定感だけではなく、速さも少しだけ向上したように感じます。最初の一步が出しやすくなった様子です。
YSさん 女性88	6	"	△	ベッド上での体幹運動に加え、立位にてバランス運動・下肢感覚入力を行う。歩行の変化はさほど無いが、立位の姿勢改善を自覚される。
	13	"	△	先週同様、立位の姿勢改善・安定は見られます。ステップを踏み出す際の右股関節違和感が生じたためそこで終了することとなる。
	20	"	○	運動療法中に右下肢・股関節に全体重が掛かるとクリック音がします。疼痛はありませんが安全を見込んで回数制限して行っています。施術後は立位・動作性の向上が見られます。
	27	"		前日から体調が優れず、運動療法はやむを得ず見送りとなりました。
OHさん 女性80	7	"	△	パーキンソン病がかなり進行しています。本人の希望で立位・歩行能力の向上を希望されています。下肢感覚入力を初回として行う。施術後やや足の運びが良くなった印象。
	14	"	△	施術後は、若干すくみ足が減少したように感じます。円背も強度なためそのための運動も合わせて行いました。
	21	"	△	下肢の動作性・安定性は運動療法により高まってきたと感じます。体幹の可動性にまだ難があります。

	28		○	下肢に加え、体幹の運動療法を並行して行ってきましたが、体幹の可動性が現れてきました。まだ補助が多く必要ですが動作性が高まりました。ご本人の積極性が励みになります。
--	----	--	---	---

運動療法・【歩行安定】まとめ

今回は、運動療法の【歩行安定】という課題に取り組み、中でもパーキンソン病を中心に取組みました。

元々ある病状が強いため、運動療法をそのまま当てはめても無理なことがあり、前段階で如何に(運動療法を行える体勢づくり)が大事かという事を感じました。

そのため、患者さんにこちらの考える運動形式を行っていただけるときに時間を要することとなりました。ただ、それを踏まえてあるレベルに達すると他の方と同じ様な運動療法が可能になり徐々に結果も現れました。

具体的に言えば、立位での体幹伸展が出来ない方を先ずはベッド上で臥床位で行い、その後座位で、さらに立位でと言う段階を踏んでいきました。

こちら、患者さんも我慢・根気が要求されました。今後はいかに効率よく、負担を軽く行う事を模索できれば良いと思います。